

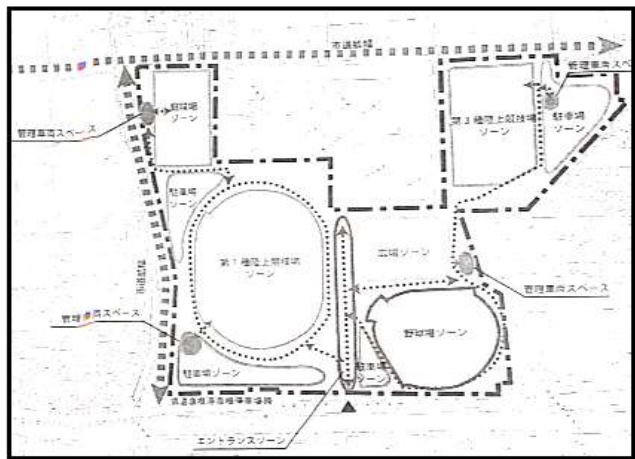
国体に300億から615億円？！

一般質問

9月定例県議会

多額の整備費を見直せ。国体は簡素化を図り、地域のスポーツ振興を軸に

平成 34 年(2024 年)に滋賀県で国体が開催される予定です。日本共産党県議会議員団は、①莫大な財政負担を強いる施設整備は見直し、後年度に負担を残すべきではない。大会後地域のスポーツ振興に役立つ施設にすること。② 無理な優勝のために強化策はとらず、県民や地域のスポーツの振興を図ることを求めています。



ふしき県議は、県が2巡目の国体をするにあたり、運営は簡素化を図ること、既存の施設活用という点から、近隣府県を含む広域開催を提案し、無駄と無理のない準備活動をすべき提案しました。

主会場となる「彦根運動公園」は、182 億円の整備費を見込んでいます。さらに200 億円に跳ね上がることも予想されるとしています。

また今後、各競技会場となる県立施設、市町の施設の整備・改修も含めると、合わせて300 億から615 億円とも言われています。

「県民の福祉、教育、くらしにかかわる切実な要求があるときに、このような多額の整備費は県民の理解は得られない。最小限の費用におさえるべき」と知事に強く求めました。

国体の主会場予定の彦根運動公園基本計画 (182億~200億円)

「命にかかわる問題です。一も早く実施してください。」

肝炎救済センター 会員

おこなっている肝炎検査助成800万円、実施を

全国で350万人、滋賀県内では約3500人と推計されるB型、C型肝炎患者感染者の多くは、集団予防接種を含む注射器の使い回し、輸血、血液製剤などで感染させられた被害者です。肝炎対策基本法で定められたように、国と地方自治体には、感染患者を救済する責務が課せられています。

患者、家族のみなさんの運動の広がり、昨年度より「ウイルス型肝炎患者等重症化予防推進事業」が始まりました。初回の精密検査費用と、定期検査費用の2回を国と地方自治体でおこなっています。

現在全国では42都道府県で2回の検査助成をしていますが、滋賀県は1回のみ。肝炎対策が遅れています。県の予算でいえば、わずか800万円です。

「命にかかわる問題。すぐ実施をせよ」と迫りましたが、知事は「来年度にむけて考える」とどまりました。

みちよの
かけ歩き(記)

暮らしを守る
仕事をお
ろそかにす
るなんて!

ひどい。
まじめに
やって!

出席は議員の第1議の仕事 9月30日、本会議 10人が早退

9月30日の本会議、私が最後の質問にたった午後6時過ぎ、空席が目立ちました。10月1日の中日新聞は10人が早退と報道。定数44議席の23%にもなります。翌日の議会運営委員会では私は「本会議を最後まで出席することは、やむをえない理由を除いては議員として当然のこと。県民の批判は免れない」と指摘。自民党議員が、晩婚化の原因として『女性の高学歴』をあげたことについても厳しく批判しました。自民党県議の「県がやっておられる入札がすべてきれいやと……。誰も思っていないでしょう。」と入札の公平さを欠く発言の取り消しがおこなわれるなど、議員としての資格が問われる問題の数々。県民から批判がでるのも当然です。(ふしき)

近隣の国道は拡幅し、渋滞の解消を急げ 琵琶湖大橋は無料に

滋賀県では、琵琶湖大橋の通行料徴収を継続する6期事業計画(平成41年8月まで)を示しています。

もともと、琵琶湖大橋は、利用者の5割が回数券を利用するなど、生活道路としての役割を果たしています。県がおこなった利用者のアンケート調査でも、無料化を求める声が7割を占めています。

昨年度の財務状況から見ても、赤字であり、道路公社の業務監査が「このような状況で料金徴収を続けることは適切でない」としており、ふしき県議は「本来ならば無料にするべきだ」と主張しました。

また、懸案となっている琵琶湖大橋の天津側の国道477号の渋滞解消は、県の道路事業として、住民のみなさんの要望に応え、急ぐべきと迫りました。